

◎一部旅券査証及び査証料の相互免除に関する日本国政府
とイスラエル政府との間の取極（口上書）

（略称）イスラエルとの査証及び査証料免除取極

昭和四十六年 九月 十六日 東京で
昭和四十六年 十月 一日 効力発生
昭和四十七年 四月 二十一日 告示

（外務省告示第八一号）

目次

ページ

日本側口上書	二二七
(1) 査証免除	二二七
(2) 滞在期間の延長	二二七
(3) 査証免除の除外	二二七
(4) 査証料免除	二二八
(5) 国内法令の遵守	二二八
(6) 入国又は滞在の拒否	二二八
(7) 終了の通告	二二八
イスラエル側口上書	二二八
(1) 査証免除	二二九

(2) 滞在期間の延長	二二九
(3) 査証免除の除外	二二九
(4) 査証料免除	二二九
(5) 国内法令の遵守	二二九
(6) 入国又は滞在の拒否	二三〇
(7) 終了の通告	二三〇

(日本国外務省から在日本国イスラエル大使館あての口上書)

(訳文)

口上書

外務省は、イスラエル大使館に敬意を表するとともに、日本国政府が、日本国に入国することを希望するイスラエル国民に對する査証及び査証料の免除に関し、千九百七十一年十月一日から相互主義に基づき次の措置を執る用意を有することを同大使館に通報する光榮を有する。

(1) 有効なイスラエル旅券を所持するイスラエル国民であつて、継続して三箇月をこえない期間滞在する意図をもつて日本国に入国することを希望するものは、査証を取得することなく日本国に入国することができる。

(2) 日本国政府は、(1)の規定に基づいて査証なしに日本国に入国したイスラエル国民であつて、滞在期間を三箇月をこえて延長することを希望するものに対し、滞在期間の延長を許可することができる。

(3) (1)の規定に基づく査証の要件の免除は、イスラエル国民であつて、就職し、永住し、自由職業若しくは他の生業を営み報酬を得る目的で芸能(スポーツを含む)に従事し、又は継続して三箇月をこえる期間滞在する意図をもつて日本国に入国することを希望するものについては、適用しない。

査証免除
の除外

滞在期間
の延長

査証免除

日本側口
上書

No. 14/MEE

NOTE VERBALE

The Ministry of Foreign Affairs presents its compliments to the Embassy of Israel and has the honour to inform the Embassy that the Government of Japan is prepared to take on a reciprocal basis the following measures as from October 1, 1971 concerning the waiving of visas and visa fees for the Israeli nationals seeking entry to Japan:

(1) The Israeli nationals in possession of valid Israeli passports who are seeking entry to Japan with the intention of staying there for a period not exceeding three consecutive months, may enter Japan without obtaining a visa.

(2) The Government of Japan may grant extensions of the period of stay to the Israeli nationals who, having entered Japan without a visa under paragraph (1) above, desire to extend the period of stay beyond three months.

(3) The waiver of visa requirements under paragraph (1) above shall not apply to the Israeli nationals who desire to enter Japan with the intention of seeking employment or permanent residence, of exercising a profession or other occupation or of engaging in a public entertainment (including sport) for remunerative purposes or with the intention of staying there for a period exceeding three consecutive months.

査証料免除

国内法令の遵守

入国又は滞在の拒否

終了の通告

(4) 査証が必要とされ、かつ、付与されるときは、日本国の権限のある外交及び領事当局は、その査証についていかなる手数料をも徴収しない。

(5) (1)の規定に基づく査証の要件の免除は、日本国に入国するイスラエル国民に対し、外国人の入国、滞在、居住及び出国に関する日本国の法令に服することを免除するものではない。

(6) 日本国政府は、好ましくないと認めるイスラエル国民に対し、日本国に入国し又は滞在することを拒否する権利を留保する。

(7) 日本国政府は、書面による二箇月の予告をもつて前記の諸規定を終了させることができる。

千九百七十一年九月十六日に東京で

(在日本国イスラエル大使館から日本国外務省あての口上書)

訳文

口上書

イスラエル側口上書

イスラエル大使館は、外務省に敬意を表するとともに、イスラエル政府が、イスラエルに入国することを希望する日本国民

(4) For visas, when required and granted, the competent Japanese diplomatic and consular authorities will not charge any fees.

(5) The waiver of the visa requirements under paragraph (1) above does not exempt the Israeli nationals entering Japan from the necessity of complying with the Japanese laws and regulations concerning the entry, stay, residence and exit of aliens.

(6) The Government of Japan reserves the right to refuse the entry into or stay in Japan to the Israeli nationals considered undesirable.

(7) The Government of Japan may terminate the foregoing by giving two months' written notice.

Tokyo, September 16, 1971.

IE/1191

NOTE VERBALE

The Embassy of Israel presents its compliments to the Ministry of Foreign Affairs and has the honour to inform the Ministry that the

に対する査証料の免除に関し、千九百七十一年十月一日から相互主義に基づき次の措置をとる用意を有することを同省に通報する光榮を有する。

査証免除

滞在期間の延長

査証免除の除外

査証料免除

国内法令の遵守

- (1) 有効な日本国旅券を所持する日本国民であつて、継続して三箇月をこえない期間滞在する意図をもつてイスラエルに入国することを希望するものは、査証を取得することなく、イスラエルに入国することができる。
- (2) イスラエル政府は、(1)の規定に基づいて査証なしにイスラエルに入国した日本国民であつて、滞在期間を三箇月をこえて延長することを希望するものに対し滞在期間の延長を許可することができる。
- (3) (1)の規定に基づく査証の要件の免除は、日本国民であつて就職し、永住し、自由職業若しくは他の生業を営み、報酬を得る目的で芸能（スポーツを含む。）に従事し、又は継続して三箇月をこえる期間滞在する意図をもつてイスラエルに入国することを希望するものについては、適用しなす。
- (4) 査証が必要とされ、かつ、付与されるときは、イスラエルの権限のある外交及び領事当局は、その査証についていかなる手数料をも徴取しない。
- (5) (1)の規定に基づく査証の要件の免除は、イスラエルに入国する日本国民に対し、外国人の入国、滞在、居住及び出国に関するイスラエルの法令に服することを免除するものではない。

イスラエルとの査証及び査証料免除取極

Government of Israel is prepared to take on a reciprocal basis the following measures as from October 1, 1971 concerning the waiving of visas and visa fees for the Japanese nationals seeking entry to Israel:

- (1) The Japanese nationals in possession of valid Japanese passports who are seeking entry to Israel with the intention of staying there for a period not exceeding three consecutive months, may enter Israel without obtaining a visa.
- (2) The Government of Israel may grant extensions of the period of stay to the Japanese nationals who, having entered Israel without a visa under paragraph (1) above, desire to extend the period of stay beyond three months.
- (3) The waiver of visa requirements under paragraph (1) above shall not apply to the Japanese nationals who desire to enter Israel with the intention of seeking employment or permanent residence, of exercising a profession or other occupation or of engaging in a public entertainment (including sport) for remunerative purposes or with the intention of staying there for a period exceeding three consecutive months.
- (4) For visas, when required and granted, the competent Israeli diplomatic and consular authorities will not charge any fees.
- (5) The waiver of the visa requirements under paragraph (1) above does not exempt the Japanese nationals entering Israel from the necessity of complying with the Israeli laws and regulations concerning the entry, stay, residence and exit of aliens.

入国又は
滞在の拒
否
告
終了の通

(6) イスラエル政府は、好ましくないと認める日本国民に対し、イスラエルに入国し又は滞在することを拒否する権利を留保する。

(7) イスラエル政府は、書面による二箇月の予告をもつて前記の諸規定を終了させることができる。

千九百七十一年九月十六日に東京で

(6) The Government of Israel reserves the right to refuse the entry into or stay in Israel to the Japanese nationals considered undesirable.

(7) The Government of Israel may terminate the foregoing by giving two months' written notice.

Tokyo, September 16, 1971

(参考)

この取極は、日本国政府とイスラエル政府との間で相互主義に基づき一部旅券の査証及び査証料の相互免除を行なうことを定めたものである。